

令和4年度 第2学年 授業改善推進プラン

昭島市立拝島第二小学校

	指導の実態及び課題	具体的な授業改善策
国語	<p>○話型を提示し、話す・聞くことの基本指導を徹底させている。話型を基に、理由を話すことができるようになってきているが、個人差がある。</p> <p>○話を聞く態度は身に付いている児童が多いが、友達の話や話を踏まえて意見を言うことには課題がある。</p> <p>○身近な事物を説明する文章を書く活動を行っているが、事柄の順序に気を付けながら文章の構成を考えて書くこと、語と語や文と文の続き方に気を付けてつながりのある文章を書くことに課題がある。</p> <p>○習ったカタカナや漢字を文章の中で使うことができない児童が多い。</p> <p>○原稿用紙の使い方に課題がある。</p> <p>○授業で、音読や相互読み、黙読などいろいろな読み方をする場面を取り入れた。授業外の働きかけになるが、毎日、音読の宿題を出して、声に出して読む機会をもった。</p> <p>○物語や説明文を読み、想像を広げて楽しむ活動を行っているが、内容や事柄の順序を考えたり、場面の様子や登場人物の気持ちを考えたりすることに課題がある。主語と述語の関係を捉えることに課題がある。</p>	<p>・話型を活用し、聞き手に分かりやすく伝えることを意識させ、日常的に話す活動を取り入れる。また、話を聞く姿勢を徹底させるとともに、友達の話や話を聞いて思ったことや感じたことを伝える話し合い活動を充実させる。</p> <p>・構成表を用いて「はじめ」「なか」「おわり」を意識できるようにする。その上で、語と語や文と文との続き方に注意して、まとまりのある読み手に伝わりやすい文章を書く練習を積む。自分で読みやすい文になっているか確認する習慣を身に付けさせる。</p> <p>・習った漢字や、カタカナを使って文を書く活動を適宜取り入れ、習ったことを活用する力を育てる。</p> <p>・原稿用紙を使って文を書く時間を意図的に設定し、原稿用紙の使い方に慣れさせる。</p> <p>・絵や絵本・紙芝居・読み聞かせなど、工夫して物語を提示するとともに、文章中の大事な言葉や文章を見付ける活動を通して、時間や事柄の順序や、主語・述語の関係を正しく捉え、場面・登場人物の心情をより想像できるようにする。</p> <p>・朝学習の時間を活用し、読書、音読、視写、考えを話す活動を毎週積み上げていくことで、話す・聞く・書く力の定着を図る。</p>
算数	<p>○ブロックなどの具体物・半具体物を使って、数の理解を深め、計算技能を身に付けさせる指導をしているが、数の認識、計算技能が定着していない児童が一定数いる。</p> <p>○習熟度別少人数指導を行っているが、習熟に時間を要するコースでは基礎的・基本的な学習事項を身に付けさせることに多くの時間を要する。習熟度に応じて人数を調整することで、各コースの指導に大きな差が出ないよう配慮している。</p> <p>○数学的な考え方を伸ばすために、児童が式などの数学的な表現を用いて自分や友達の考えを発表・説明させたが、基礎的・基本的な学習事項の定着が不十分で説明することができない児童や、計算はできるが、自分の考えを説明することができない児童が多い。</p>	<p>・今後も継続して半具体物进行操作する活動や、日常の事象をから考える活動を多く取り入れ、数の理解をより一層深める。家庭と連携し、宿題等を通して反復練習を行わせ、確実に計算技能を定着させる。反復練習での定着が難しい児童には、休み時間等で個別指導を行い、定着を図る。また、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けさせる。</p> <p>・習熟度別の少人数集団の編成の際には、習熟に時間を要するコースの人数を少なくするように留意している。また、各コースの指導に大きな差が出ないよう数学的な言語活動に配慮している。どのコースも黒板に既習事項や学習のめあてを板書し、活用して説明させ、言語活動が活発化するように工夫する。教員が自分の考えを発表する例を初めに示し、見通しをもち筋道を立てて、数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に説明する力が身に付くようにする。</p> <p>・児童が考えを発表した際には必ず「どうして？」と根拠を問うようにする。また、言葉で説明したり操作を行ったりして根拠を示す例を提示する。また、他の児童の考えを説明させる活動を取り入れ、友達の考えを聞きながら理解しようとする姿勢を養う。そして、数学的活動の楽しさやよさに気づき、粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようしたりできるようにする。</p>
音楽	<p>○新型コロナウイルスの影響で歌唱、鍵盤ハーモニカの演奏など制限された学習活動の中で、リズム遊びや打楽器演奏、表現を中心に全身を動かして楽しく活動している。</p> <p>○拍子やリズムなど曲想との関わりや特徴に気づき、リズムを組み合わせて演奏（手拍子、打楽器）する技能がまだ十分でない。音符や休符を捉えられていない児童が見られる。</p>	<p>・今後も体を動かす・リズム遊び・音遊びなどを一人やグループで表現したり、聴き合ったりする場をつくる。全体で共有する機会を多く取ることで、それぞれの表現のよさを感じ取る体験を積み重ねる。</p> <p>・授業にリズム遊びを取り入れ、楽しみながらリズム感を養う。個別に指導したり友達と教え合ったりする時間を取り技能の習熟を図る。音符や休符は繰り返し指導し、定着を図る。</p>
図画工作	<p>○絵の具に親しみ、楽しんで活動する児童が多いが、絵の具を適切な量の水で薄めて塗ったり、線からはみ出さずに塗ったりすることが難しい児童もいる。また、一部の児童は、水や絵の具の量の加減が難しく画用紙がふやけてしまったり、思う色が作れなかったりするなどの課題がある。</p> <p>○自分なりの発想を生かした作品を描いたり作ったりする時に、イメージが湧かず、友達の作品に似たものに仕上がってしまう児童が見られる。また、すぐに仕上げて発想を広げられない児童もいる。</p>	<p>・引き続き、絵の具の使い方を段階的に丁寧に指導していく。</p> <p>・作品を描いたり作ったりする時の想像力を豊かにするために、児童の体験や知識を引き出させながらイメージを膨らませる時間を十分取る。また、材料や素材から感じられるイメージを広げるため、色、手触りなど親しませる時間を十分取る。</p>
体育	<p>○単元や内容により技能の差が見られる。体力テストの結果より、</p> <p>○体を動かすことや体育の授業が好きな児童が多くいる一方で、一定数の児童は体育について楽しく感じておらず、この人数は学年が上がるにつれて増加していくことが予想される。</p>	<p>・用具の準備や、活動内容の伝達等にかかる時間を短縮できるように計画を見直し、体育の授業中の運動量を増やす。また、準備運動で様々な動きを組み合わせた運動を取り入れることで、たくさんの筋肉や関節を動かし、児童の柔軟性（可動域）を伸ばし、運動能力を向上させる。また、短い時間で細かく動きを変えることで体に様々な刺激が加わり、効果的に運動能力を向上させる。</p> <p>・コーディネーショントレーニングを体育の中で実践し、運動能力を向上させる。</p> <p>・各種の運動遊びの楽しさに触れ、喜びを味わうことができるような場の設定や友達との関わりを重視して指導する。また、授業時間外の働きかけになるが、休み時間にも外に出て運動させるように声掛けをする。</p>
道徳	<p>○道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにめあてを提示しているが、自分の考えがもてない、友達の考えが認められないなどのことから、価値を深められないという課題がある。</p> <p>○資料を通して道徳的価値を理解し、自己の生き方についての考えを深めていけるようにしているが、資料の内容から考えたことを、自分の経験に即して考えることに課題がある。</p> <p>○自分だったらどのように考え、どのように行動するか、考え、議論することに課題がある。</p>	<p>・教材・教具を作成したり、自分の考えを書くための学習プリントを作成したりして、資料の内容を踏まえ、自分自身を振り返り、自分の考えをもてるようにする。また、友達の考えを聞いたり、対話を通して自分と友達の考えを比べながら自分の考えを深められるようにする。</p> <p>・道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるように、日常生活で起こった場面を想起させたり、児童の考えに揺さぶりをかけたりすることで自己の生き方について考えを深められるようにする。</p> <p>・登場人物の気持ちや思いに寄り添いながら、友達と話し合ったり友達の発表と比べたりすることで、自身の考えを深められるようにする。</p>
生活	<p>○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、生活を豊かにしようとする態度が養われている児童が少ない。</p> <p>○体験したことや観察したことを絵や文章で表現することが苦手な児童が見られる。</p>	<p>・保護者や地域の方々への支援を活用し、公園、図書館、郵便局など、近隣の施設を探検する体験活動を充実させることで活動を通して得た気づきを基に、自分との関わりを考える時間をもつ。体験の前後に意見交流を行い、気付いたことや考えたことをまとめさせる。家族や地域の人々と交流する機会をもち、生活を豊かにする知恵を実感させる。自分たちの生活を豊かにしてくれる人々や社会、自然に主体的に働きかけるにはどうすれば良いか考える時間をもつ。（SDGsの視点を意識した学習を行う。）</p> <p>・児童の表現したいことを教師が汲み取り、表現方法について児童の気づきを生かしながら手助けをする。また、友達同士が気付いたことを書き表したものと意見を交流する場をもち、表現する方法を広げていけるようにする。観察カードを工夫し、観察の視点やポイントを意識させる。</p>
特別活動	<p>○学習や給食、清掃など学校における基本的な生活の仕方を身に付いていない児童が見られる。</p> <p>○学級会の話し合いを自分のこととして捉えなかったり、友達の意見をしっかりと聞けなかったりする児童が見られる。</p>	<p>・基本的な生活の仕方を振り返るシートを使い、児童に振り返らせる時間をつくる。</p> <p>・教師対児童の縦のつながりだけでなく、班の友達同士などの小集団を活用して協力する体制をつくる。</p> <p>・拝二学級力スタンダードに取り組み、学級集団としての質の高まりを目指す。学級のために児童がすすんで行った活動を価値付けて共有したり、児童相互のよりよい人間関係を形成したりする。</p>